

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3270101169		
法人名	日本海観光株式会社		
事業所名	グループホーム敬愛苑 Aユニット		
所在地	島根県松江市寺町198-57		
自己評価作成日	平成27年11月25日	評価結果市町村受理日	平成28年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://x.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=327">x.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=327</a>
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成27年12月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ビルの4階にホームがあります。同フロアーには人口庭園があったり、市内や宍道湖が一望できるフロアーもあり、利用者様は慣れ親しんだ宍道湖や市内の風景を観ながら、自由に散歩をしていただいています。また外出行事も充実させていて、各利用者様のペースに合わせた計画をしてお出かけいただき、安心して生き生きと過ごせる雰囲気づくりをしております。  
地域の町内会や公民館行事にも利用していただけるように、4階フロアーにある会議室やコミュニティルームなども提供して、地域との交流も積極的に行い、基本理念である「人と人、心の和を大切に」をスタッフ全員で実践できるよう、日々努力しております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

今年度グループホーム専用車を購入し利用者の希望する場所や食事に出かけたり、新緑ドライブや紅葉ドライブなど五感を大切にしたい外出機会が増えている。事業所があるビルの一階のカラオケ店の協力で日中は無料で利用したり踊りなどのボランティアも増え地域の人と関わりが深まっている。中学生の職場体験や専門大学生の研修の受け入れを行い、認知症の理解を深めたり、ずんだ餅を作ったり、抹茶をたてるなど一緒に楽しめるように企画している。外部研修や内部研修で学び利用者の立場になり色々な視点から利用者の気持ちに寄り添い本人本位の暮らしになるように取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は開設時より変わっていない。ユニット内や玄関、エレベーター入口付近に掲示している。研修時などに話し合い、日々のケアの中心になることを意識して実践できるようにしている。	理念を日々意識して利用者の思いを色々な角度から把握し、本人本位の暮らしに繋げるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事を縮小して苑庭でやっていただいたり、近くのお店まで利用者と一緒に買い物に出かけたりしている。また地域のボランティアの方に来ていただき、触れ合う機会をもっている。防災時は地域住民の一時避難場所になっている。	会議室やコミュニティルームを地域の会合やサークルなどに開放している。複数の公民館のボランティアの来訪が増えて、フォークダンスや踊り、ハンドベル演奏など利用者と一緒にする場面もあり交流が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の町内会や研修等に空スペースを開放したり、利用者の中に近隣から入居されている方もおられるため、見学や面会にもきていただき、認知症ケアの啓発に努めている。また「まちゼミ」も参加して、希望者に受講していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの状況や日々の活動、行事報告と事故の内容、その後の取り組みなども報告し、参加者から質疑、意見、要望等も聞いている。意見交換時には、制度改正の説明や敬愛苑の防災について専門スタッフより説明を受けたりしている。	利用者の状況や事業所の取り組みを伝え、家族からの質問に答えたり意見交換をしている。空室の件を相談したり制度改正の説明などを受けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは連絡を密に取っているわけではないが、利用者についての相談や問題、制度についての疑問などの解決には日々対応してもらっている。運営推進会議でも意見や助言ももらっている。	今年度から月に2回市の相談員の訪問を受けている。利用者の退所に当たり相談し対応して貰うなど協力関係を築き取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部、内部でも研修にはできる限り参加し、拘束を行わないという姿勢を持って取り組んでいる。見守りを徹底しながら支援し、職員同士お互いに注意し合っている。	外部研修に参加した職員が各ユニット会議で伝達している。言葉がけについても話し合っている。転倒のリスクのある利用者は家族に状況を伝え安全に生活出来るように対応している。	定期的に勉強会を開催し、さらに身体拘束の具体的な内容の理解が深まることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にはできる限り参加して、その後内部研修をして何が虐待行為になるのかを認識できるように努めている。また職員同士相手の立場にたって考えることができるようお互い注意しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用者様は現在はおられないが、外部研修に出かけたり、内部でも研修を行い、入居されてきたときのために日頃より学んでおきたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所のケアに対する考え方や取り組み、対応可能な範囲について説明し、同意を得ている。改正時にも同じく理解、納得してもらって同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来苑時には必ず声をかけて利用者の状況を説明して、要望等を出しやすい雰囲気作りを努めている。出された意見や思いはミーティング等で話し合い、お互い納得いく関係作りをしている。	言いやすい関係作りに努め、来訪時や運営推進会議、行事の時などに要望を聞いている。定期的に居室担当者がたよりを写真付きで送り手書きのコメントを添えて様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は日頃から職員と話しやすい関係作りに努めている。また会議や面談でも意見として聞き、説得ではなく、お互い納得して話し合いのできる雰囲気作りをしている。	日頃から業務の提案などを聞き出来る事から改善に繋げている。介護用シーツを一番上に敷く事は「何かおかしい」との意見から本人の立場で考え改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況は現場に出て把握している。職員の業務の悩みや人間関係などについても、話しやすい関係作りをしている。休憩時間や場所、休日の確保などにも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症の理解を含め、経験年数などに応じた外部研修の機会や社内研修を計画し、技術やチームワーク向上に努力している。また資格取得のための勤務体制の協力、事業所からの助成金なども出している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会や研修には積極的に参加して、交流の機会を作っている。他グループホームや特養からの見学や研修生も受け入れていて、機会があれば、こちらからも見学や研修に出かけ、ホームの業務に反映されるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、リーダー、管理者が面接に伺い、ご本人の希望を聞いたり、施設での生活面についての説明を行い、安心していただけるよう話し合いがなされている。自分自身も、入居時安心していただけるよう声かけをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の面会の際、お話をさせていただき、要望や困っておられること、心配なことがないかお聞きし、都度説明させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の要望を聞きながらも、観察に努め、何が必要か検討、相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で一緒にレクリエーションを行ったり、家事を手伝っていただいたりし、共に活動できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様と家族様が共に過ごす時間が持てるよう機会を設けたり、希望時、電話をかけていただき、ご家族様との関係が維持できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣のデイサービスに散歩にご案内したり、レクリエーション等で馴染みの人と会うことができるよう支援している。	日頃の会話の中から把握に努め、自宅に帰った時に隣人と挨拶を交わしたり、元職場にドライブし風景を伝えるなど支援している。ボランティアとの関わりも長く馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しがちな利用者については、職員が声を掛け、他の利用者と関係が気付けるよう間に入り、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、本人家族から相談等求められれば、応じる態勢はある。退居後も施設訪問を行ったり、退居後死亡となった場合は、事情が許す限り葬儀等に参列している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が図れる方は会話を通して希望や意向などを把握し、なるべく思いに添うようになっている。意思疎通が困難な方は、会話を始め、本人の表情や行動等から、その奥にある思いを理解するようにしている。	言葉や表情、行動から思いの把握に努め一人ひとりにとって気持ちの良い声掛けや希望した暮らし方が出来るように取り組んでいる。配偶者に会いたい人には面会交流をプランに入れて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に自宅や施設に赴き、そこでの暮らし方や生活環境等について、本人や家族、ケアマネ、施設の人から情報を得るようにしている。そして、その情報はスタッフ全員に伝え、共有することで今後のサービスにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者それぞれの一日の過ごし方、心身の状態、残存能力など現状を把握し、スタッフ全員で情報は共有し、同じ対応、ケアができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思い、日常の様子、また健康状態などを見ながら、スタッフ全員(看護師含む)で当施設での生活をどう過ごしていただくことが良いのかを話し合い、介護計画を作成している。	利用者の日頃の思いや家族の希望などをユニット会議で話し合い、その人らしい暮らしに繋げた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの1日の様子、心身の状態、ケアの仕方やその結果などを個人記録に都度記録し、必要な情報は伝達したり、ユニット会議で検討し、よりベストなケアが実践できるようにしている。そして、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月、その季節に合った行事を計画したり、外部からのボランティアの受け入れも行っていて、入居生活が楽しく変化に富んだものになるよう努めている。利用者の状態や天候に合わせ、ドライブや近隣への外出なども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に、民生委員、中央包括職員、市介護保険課職員等に参加していただき、情報交換、協力関係を築くようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様のかかりつけ医や希望される病院の受診、及び往診を受けていただいている。必要に応じて付き添い、家族と同行し、普段の様子等を伝えるようにしている。	利用者や家族と話し合い入居前のかかりつけ医の継続や協力医に変更した人もある。受診時には日頃の情報を伝え適切な医療が受けられるように支援している。必要に応じて付き添いも行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の体調管理、状態変化に応じた支援を行えるようにしている。体調の変化等見逃さないよう、連携し取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人様の支援方法、情報を医療機関に提供している。家族とも情報交換しながら、退院支援に結び付けている。ご本人様の所にもできるだけ伺うようにし、安心していただくような声かけ等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては行っていない。重度化や終末期の対応については、入所時に本人、家族に説明をして納得していただいている。その際は、主治医と共に十分に話し合いをした上で、特養の入所申し込み等支援できるようにしている。	入居時、家族と話し合い事業所の方針を伝えている。看取りは行っていないが家族、主治医、関係者と話し合い事業所で出来ることを説明し支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。年1回AED等の講習会を苑内で実施している。(消防署よりAEDとダミー人形を借りて実施している。)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、年2回の避難訓練、定期的に行っている研修等で、消火器の使い方などを実施している。	法人のデイサービスと合同で年2回避難訓練を実施し内1回は消防署の立ち合いで行っている。2カ月に1回消防設備研修を行っている。運営推進会議で事業所の防災の説明もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの思いを汲み取り声かけをし、自信を持って行動できるように対応、支援をしている。	人格や生活歴の把握を行い利用者を尊重した言葉がけに努めている。利用者の目線に合わせて話しをするなど職員間で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身の思いがスムーズに表現できるような声かけをしていくよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の1日の生活リズムに合わせ、安心して過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容、入浴により身体の清潔、洗髪等、利用者の希望に添うように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は音楽をかけ、ゆったりした中で食事ができるようにしている。一人ひとりの食事量、形状を考え、満足していただけるようにしている。料理の準備等を手伝っていただくこともあり、その方の力を発揮していただく。	下ごしらえや盛り付けなど出来る事を活かせるように支援している。季節に合わせて年越しそば、鍋、花餅やおはぎづくりなど一緒に行い楽しみに繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量は1日を通じてどれ位摂られているかを把握し、その人に合わせた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は声をかけ、口腔ケアを行う。本人様にできることはしていただき、補う所は介助にて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のない利用者にも定時誘導し、排泄パターンに応じて声かけし、トイレでの排泄を促すように支援している。	一人ひとりの排泄時間やその日の体調に合わせ、見守りや介助などでトイレでの排泄が出来るように支援している。パットの工夫に取り組み使用を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表を使用し、便意のない方、便秘気味の方には、牛乳を飲用していただいたり、散歩の声かけをしたり、下剤を服用していただいたり、腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に一度の入浴を心掛けている。希望する方には2日ごとに入浴していただいている。入浴を拒否される方には、早めに何度か声をかけ、タイミングに気を付けている。	基本は決まっているが、入浴日で無い日は足浴をしている人もある。トリートメントで髪染をしている人や気が向かない人にはマッサージの後に入浴するなど利用者に合わせた工夫をして支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や生活ペースに合わせ、心地よく眠りにつけるよう、午睡していただいたり、散歩や体を動かしてもらったりしている。不眠気味の方には、眠剤を服用していただき、睡眠状態を把握する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を作成し、複数の職員と誤薬のないように、一包毎確認し合う。状態変化時はすぐ看護師、主治医と連絡を取り、詳細を説明し指示を仰ぐ。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの性格、生活歴にそって、できること(お膳拭き、洗濯物干し、たたみ)を存分に発揮していただいている。職員一同シール貼り、食器洗い等大変助かり、常にお礼の言葉をかけている。また季節毎のお菓子作り、食事作りを計画し、楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の行事(ひなまつり、こいのぼり等)にそい、神社、お墓参り等車椅子、歩行安定の方は歩いて散歩に出かけている。またドライブでは出雲方面まで出かけ、食事をしたり、お土産を買い、帰苑後一緒にお茶を楽しんでいただいている。	天気や職員の体制に合わせ近所の散歩や墓参りなど希望に沿った支援に努めている。春と秋には、新緑ドライブ、紅葉ドライブで外食して楽しんでいる。誕生日には普段行けない「フォーゲルパーク」や喫茶店に一对一で行くなどしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族または本人よりお金を預かり、事務所で管理している。少数の方ではあるが、外出時の買い物、飲食等のお金などは自分で払っていただけるように、お金を手渡すなどの工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話には、会話が他の利用者に聞こえないようにし、また話しやすい雰囲気作りに工夫している。手紙が届いたときには、職員が声かけを行うなど支援をしている。(手紙を代わりに読むなども)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体が木目調で落ち着いた色調になっている。居室ドアのガラス部分には、それぞれに特徴のあるのれんを配して、家庭的な雰囲気づくりをしている。また壁には、レクリエーションで利用者が作られた季節感のある作品を飾っている。	季節に合わせた切り絵や飾り付けをしている。大きく見やすい手作りカレンダーや日頃の様子の写真があり利用者の五感刺激になっている。ホールのソファで人の気配を感じながら休む人もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	苑内に数ヶ所ソファを置き、仲のいい利用者同士がくつろいだりできるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具や家具、家族の写真、使い慣れた椅子等を持ち込んでいただき、居心地の良いうに工夫している。	利用者や家族と話し合い仏壇や使い慣れた筆筒、机、ソファなどを持参して家族の来訪時一緒にゆっくり過ごしている。利用者を確認し事業所から筆筒の貸し出しを行っている人もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせた危険防止策をたて、職員間で協議し、安全に安心な生活が送られるよう配慮している。		